

江の川探検隊

三次市立川地小学校 対象学年（５年）

体験活動の種類 **社会奉仕** **自然**

体験活動場所・宿泊場所 三次市作木町 江の川カヌー公園さくぎ

【学校紹介】

川地小学校は学校教育目標“ふるさとを愛し、夢の実現に向けて努力できる児童の育成”の達成に向け、研究主題を『思考力、判断力、表現力を育成する、生活科・総合的な学習の時間の創造』とし、生活科・総合的な学習の時間を中心に地域体験活動に力を入れています。豊かな自然、奥深い文化、元気な人々など、川地地域には、教材とするにふさわしい「人・もの・こと」がたくさんあります。地域の方の協力のもと、様々な地域体験を教育の中に位置づけることで、ふるさとを愛し、ふるさとのよさに気づくことができる子どもたちを育てることを目指しています。

校長名：大原 俊哉

児童数（学級数）：84（7）

所在地：広島県三次市下川立町503-1

電話番号：（0824）68-2833

URL：<http://www.miyoshi-kawachi-e.hiroshima-c.ed.jp/>



【体験活動のねらい】

自然や文化、産業などに係る体験活動を通して、自然の大切さや畏敬の念を育むとともに、自然を生かし、自然とともに生活していくことへの意義を理解する。

集団宿泊活動を通して、自主・自律、思いやり、協調性、規範意識等の道德性を高める。

体験地域の人々との交流を通して、協力して地域の自然や伝統的な文化・産業を守っていくこととする思いを感じ取り、地域社会の一員としてよりよく生きていくこととする態度を養う。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
5月～7月	事前学習 <ul style="list-style-type: none">川探検、地域の方の話自然を愛する心の学習「一ふみ十年」食や救急処置に関する学習班の目標、きまりの設定	15	総合的な学習の時間 道徳 家庭科 保健体育科 学級活動	地域の川 学校	外部講師 担任

8月	集団宿泊活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 沢登り体験，カヌー体験 ・ 川流れ体験，川漁体験 ・ 地元の自然について交流 ・ こんにやくづくり体験 ・ 地元の産業や自然等見学 ・ 牛乳豆腐作り体験 ・ ボランティア体験 	30	学校行事 総合的な学習の時間 家庭科 社会科	わかたの村	地域の方 指導員 学校職員
9月～12月	事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・ お礼の手紙や感想文作成 ・ 活動のまとめ ・ 成果発表会の計画・準備・資料作成 ・ 郷土愛，自然愛，奉仕等の学習 	18	総合的な学習の時間 国語科 道徳	学校	担任 外部講師
10月	成果発表会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験活動の発表 	4	学校行事	学校	担任

【体験活動の概要】

地域の方との交流活動

- ・ 毎回地元の食材を使い，地域の方と食事作りを体験した。また，手作りこんにやくや牛乳豆腐，収穫させてもらった椎茸など，体験活動での収穫物を食材として活用した。



地元食材での食事作り



こんにやく作り体験



椎茸の収穫体験

- ・ 絶滅危惧種である野鳥「ブッポウソウ」の保護運動について地元の方から話を聞いた。

（児童の感想）

さんから作木について聞いた時，森の宝はブッポウソウだと初めて知りました。ブッポウソウは絶滅きぐ種で，日本では三次市作木町に一番たくさんいると聞いてびっくりしました。



自然体験活動（カヌー体験等）

- ・ 指導員の方に指導をしていただきながら，初めてのカヤックに挑戦。全員が思いきり楽しむことができました。

（児童の感想）

楽しかったことは，カヌー体験です。特に，カヌーとカヌーがぶつかりあうところが楽しかったです。流れのあるところもスピードがあって楽しかったです。



奉仕活動

- 最後の日には、感謝の思いを表現するために自分たちにもできることはないかと考え、施設周りのごみ拾いをした。

(児童の感想)

最後の日には、ボランティア活動をしました。カヌー公園の中のごみを拾いました。きれいにすると気持ちいいと思いました。ぼくは、これから家の周りのごみや学校の中にポイと投げたごみを拾うなど身の回りをきれいにしようと思います。ぼく達のキャンプのまとめを他の学年にも伝え、みんなできれいな学校にしていきたいです。



【体験活動の効果を高める事後学習】

総合的な学習の時間での事後学習

体験活動で学習した作木の自然や人々の思いをまとめたり、江の川の歴史や産業を調べたりした。

また、川地で水害を防ぐために建設された排水ポンプ場を見学するなどし、川地の人たちが川を生かし川と闘いながら歩んできた歴史を聞き取り、学習を深めることができた。これらの収集した情報は整理・分析して新聞にまとめ、全校児童や保護者に発信した。



国語科での事後学習

体験作文を書いた。作文の中には、体験したことだけでなく、自分の成長や友達のがんばり、スタッフの方への感謝の気持ちなども記すように留意させた。書いた作文は、クラスの中で交流し相互評価を行い、さらに内容を深めることができた。その後、発表朝会や成果発表会などで発表した。

(児童の作文)

山の中に行って、川を歩くのが沢登りです。沢登りをして学んだことは、勇気の大切さです。最後の飛び込みは、勇気が必要でした。五年生全員が勇気を出して飛び込むことができました。何度もためらう人がいたけれど、その時の勇気とみんなの応援があったからできたと思います。

【交流先や施設等との連携】

事前に下見をし、施設の担当者や体験活動指導者の方と綿密に打ち合わせをした上で、活動計画を作成した。

活動後は、お礼状や感想文、写真などを送った。

【評価の工夫】

活動の事前と事後に、児童アンケートを実施した。事前に行った児童アンケートの結果から、活動の中で何に重点を置いて指導をしていくかということ指導者が明確にすることができた。

宿泊体験活動後に、自己評価と合わせて、児童の相互評価の場を設定した。お互いのがんばりを認め合ったり、感謝の気持ちを伝え合ったりする中で、友だちから評価してもらえたことで新たな喜びが生まれ、お互いの成長を感じることができた。

学習発表会の中で、宿泊体験活動の成果発表会を行った。体験活動で感じたり学んだりしたことだけでなく、自分たちの課題も見つけ、他の学年や保護者・地域の方に発表した。発表したことに対する評価をもらうことで、自分たちの成長を感じさせることができた。

【安全面の配慮事項】

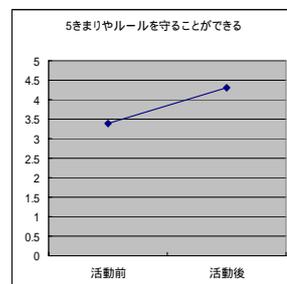
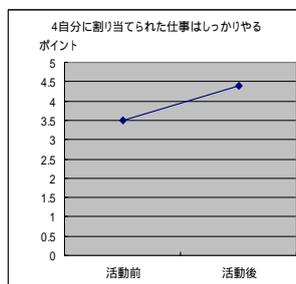
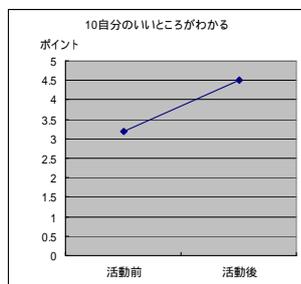
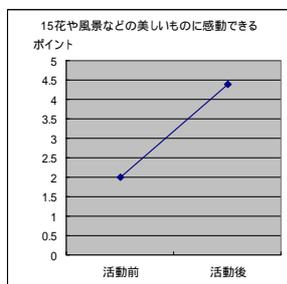
事前に下見をしたり、施設の担当者や体験活動指導者の方と打ち合わせをしたりした。体調を考え、活動と活動の間に休憩時間を十分確保するなど無理のない活動計画を立てた。

事前に健康調査を実施した。

活動中は、集合時に必ず引率者が健康観察を行うようにし、常に健康状態に配慮した。

【体験活動の成果と課題】

事前と事後の児童アンケート結果の比較から、「花や風景などの美しいものに感動できる」の項目が2.4ポイント上昇した。実際に自然の中でいろいろな体験をすることによって、児童が実感した結果だと考えられる。次に、1.3ポイントの上昇が見られたのが「自分のいいところがわかる」という項目だった。振り返りの中でも自分に自信がもてたことを感想に書く児童が多くいた。これは、たくさんの体験活動を通し、自分のいいところに気づくことができたからだと考えられる。次にポイントが高くなったのが「自分に割り当てられた仕事はしっかりやる」「決まりやルールを守ることができる」で、ともに、0.9ポイント上昇した。友達と協力して活動することを通して、達成感を感じた結果と考えられる。



体験活動を通して、人とのかかわりの大切さを感想文に書いている児童が多くいた。

(児童の感想)

私がこのキャンプを終えて思ったことは、人とのかかわりの大切さです。オーナーのさんが私たちのために料理を増やしてくださったと知った時や、夜の12時まで明日のお弁当のおかずを作ってくくださったことなど、いろいろな人が私たちを支えてくれていたんだなと思いました。ほかにも、お世話になった人には感謝することや、自分でできることは自分ですることなどを学びました。このキャンプで学んだこと、思ったこと、感じたことを生かして、これから何事にもちょうせんしたいです。たくさん感謝して、学んだことをみんなに伝えていきたいと思いました。

体験活動の成果を日常生活にどう生かしていくか、長期的な計画が必要である。常に体験に立ち返りながら自分たちの学習や行動を評価させ、次の活動へと結びつけることで、学びを深めたり広げたりしていく必要がある。